

1 調査の概要

(1) 実施主体

京都大学図書館機構

(2) 実施目的

図書館に対する意見・要望を広く収集することで、図書館サービスの向上を図るとともに、第二期中期目標・中期計画期間の事業評価及び第三期目標・中期計画期間へ向けた事業展開の検討に資する。

(3) 実施対象

京都大学の全学生・全教職員

(4) 実施期間

2015年6月15日(月) - 7月31日(金)

(5) 実施方法

- ・Web アンケート (情報環境機構提供 アンケート支援システム)
- ・日本語版および英語版

(6) 周知方法

- ・各部局メーリングリストでの周知
- ・教職員ポータル掲示板への掲載
- ・KULASIS TOP ページ Information 欄への掲載
- ・図書館機構及び一部図書館ウェブサイトへの掲載
- ・各図書館・室等でのポスターの掲示

(7) 有効回答数

2,835

(8) 回答賞品当選者

応募者数 2,503 のうちから抽選の結果、経済学研究科後期博士課程の学生 1 名が当選した。

(9) 回答者がアンケートを知った方法

平成 20 年度実施の前回調査同様「図書館・室での案内」が最も高い割合を占めている。また今回は、図書館・室のウェブサイトや全学生共通ポータル、メールといった電子的な手段での広報が 60%以上の回答を得た。

(10) 調査結果の概要

調査結果及び考察は2章のとおりである。ここでは主に前回調査結果との比較の観点からの概要を記す。

■回答者の属性（身分・所属）

おおよそ前回と同様の傾向である。なお、今回、身分については、事務職員の回答数が前回比1.5倍以上と大幅に増加した。また、所属については、医学研究科・医学部の回答数が前回比2倍以上と大幅に増加した。

■利用頻度（来館・ウェブサービス）

来館利用については、「ほぼ毎日」「週に3-4回」「週に1-2回」という高い利用頻度の回答が、全て前回調査時を上回っており、今回の調査ではこれらの回答の合計が全体の50%を越えている。それに対し、「試験期間に利用する」「ほとんど利用しない」「利用したことがない」という低い利用頻度の回答は全て前回よりも割合が低い。

ウェブサービス（KULINE、MyKULINE）については、前回調査時には電子ジャーナルやデータベースも含んでいたが、今回はそれらを対象としていないため、そのまま比較はできない。しかしながら、その前提条件の上でも「ほぼ毎日」「週に3-4回」「週に1-2回」という高い利用頻度の回答が全体の3分の1を超えている。

■よく利用する図書館・室（来館・ウェブサイト）

来館利用については、附属図書館、吉田南総合図書館といった学生を主な対象としている図書館の利用人数が増加しており、2館で全体の約55%を占めている。なお、前は複数回答可であったが、今回は上位3館の回答とした。

ウェブサイト利用については、前回に比してウェブサイトを「使わない」とする回答は減少した。この設問は、前は1館のみの回答であったが、今回は上位3館の回答とした。

■図書館・室の利用目的

前回と同様「図書の利用」が最も多く、回答数が増加している。なお、前回と比較して、全体的な利用目的の順位については大きな違いがみられないが、「自学自習」、「グループでの学習」（今回新たに選択肢として追加）が増加し、「雑誌の利用」「新聞の利用」が減少している。なお、前は複数回答可であったが、今回は上位3つの回答とした。

■図書館サービスの知名度

前回と比較して、「グループ学習室」「MyKULINE」「電子ブック」「学術情報リポジトリ KURENAI」の知名度が向上している。また、今回選択肢としてあらたに追加されたサービスのなかでは「学習室24」「ラーニング・コモンズ」の含まれる「各種施設」の知名度が高い。一方、「図書館からの情報発信」に含まれるサービスの知名度は、総じて他のグループに比べてかなり低い。

■学習・研究における図書館・室、図書館・室資料、ネットワーク情報の利用時間

図書館・室及び図書館・室資料の利用時間は、1-2時間程度が多数を占めることは前回と同様である。なお、前は利用時間「0-1時間」の選択肢に包含されていた「利用しない」の選

択肢を用意した。また、前は「インターネットの利用時間」とした設問を「ネットワーク上の情報の利用時間」としたため、単純に比較はできない。

■電子リソース（電子ジャーナル・電子ブック・データベース）の利用

今回新たに追加した設問である。回答結果からは、研究・教育活動において、電子リソースの利用が広く浸透していることがうかがえる。

■評価対象とした図書館・室

今回附属図書館を評価対象とした回答が半数近くとなっている。また、附属図書館と医学図書館の2館は、前回より選択された割合が大きく上がっている。

■図書館サービスの期待度・現状評価・満足度

前回満足度が低かった項目のうち、「4. 机・椅子の数が十分で使いやすい」「11. 図書が十分に揃っている」「15. 開館日が適切で利用しやすい」「16. 開館時間が適切で利用しやすい」については、満足度の改善がみられた。

■重視する図書館サービス

前回に続いて、「図書の充実」は最も重視されている図書館サービスで、どの身分でも高い割合を占めている。なお、前回と比べて図書館・室の場所や快適さへの要求が大幅に上がっていることから、滞在して学習する場としての要望が強くなっていると思われる。また、教員からは電子リソースへのニーズが大きく増えている。

■自由記述

前回に比べ、開館時間に対する要望がいくぶん減少している一方、今回は、施設・設備に対する要望が目立つ。なお、学習に適した環境への要望が増加している一因として、今回のアンケート実施時期が夏季だったことにより、空調に関する意見が多かったことがあげられる。

(11) 前回（平成20年度実施）調査の概要

- ・ 実施期間：2008年12月17日(月) - 2009年1月30日(金)
- ・ 対象者：京都大学の全学生・全教職員
- ・ 実施方法：アンケート用紙及びWebアンケート
- ・ 回答数：3,007
- ・ 報告資料：京都大学図書館機構図書館・室利用者アンケート調査報告書（2009年9月）
<http://hdl.handle.net/2433/85260>（京都大学学術情報リポジトリ KURENAI）